

## 2) ロータリー

### (1) 用途

耕うん爪を回転させて、耕うんと同時に碎土を行うのに使用する。耕うんと同時の施肥、播種、畦立、培土、マルチ掛けなどにも使用される。

### (2) 構造

乗用トラクターに装着してトラクターのエンジンにより、これを駆動する回転式駆動耕うん装置である。構造は、動力伝達部、耕うん部、フレーム、カバー、尾輪や、定規輪などよりなる。

水平回転軸（耕うん軸）に多くの耕うん刃をラセン状または千鳥状に配置し、これを駆動するものであるが、動力伝達のチェーン・ケースが耕うん軸の中央にあるものをセンター・ドライブ式、軸端にあるものをサイド・ドライブ式という。また、耕うん爪の回転方向が、進行方向に向かって上層から下層へ切削するものをダウン・カット（正転）式といい、ロータリーを前進させようとする推進力が働くのでけん引力は少なくすむ。逆に下層から上層に向かって回転するものをアップ・カット（逆転）式といい、後方にレーキ状のスクリーンを付けることにより、下層は荒く、上層は細かく碎土できる。なお、ワラなどの絡みを取除くため正転と逆転のできるもの（正逆転ロータリー）、高速作業を可能とした高速ロータリーなどもある。耕うん刃は、ばね鋼を鍛造し焼き入れしたもので、なた爪、L型爪、らせん爪、普通爪などがある。耕うん爪の取付け法には、ホルダー型とフランジ型とがある。なお、使用目的によって、代かき用、碎土用、深耕用、中耕用ロータリー（後述）などがある。

### (3) 取扱上の留意点

各種のものがあるので作業目的に合ったものを選択する。センター・ドライブ式は、爪の交換が容易で、種々のアタッチメントを爪軸に取付けて広範囲の作業ができ、また、延長軸を取付けて耕幅を広げることができる。これに対してサイド・ドライブ式のもの、耕幅の調節はできないが、強度・耐久性が勝る。

### (4) 安全作業のポイント

トラクターと本機両者の取扱説明書や安

全ラベルを良く読み理解する。

PTOや可動部のカバーは常に所定の位置に付けておく。

点検・調整・修理はあるいは巻付きは、必ずトラクターのエンジンを止めてから行う。

着脱時には作業機との間の挟まれや押し潰されに注意する。

始動、発進、後進時には必ず周囲に人がいないことを確認する。

移動時には他車との追突や接触に注意する（予防対策として反射材などを活用する）。

補助作業者を含めてPTO軸や耕うん爪への巻込まれに注意する。

